

SF14での緒戦は無念の結果に終わるも 嵯峨宏紀、チームともども飛躍を誓う！

SHARING ONE VISION

スーパー フォーミュラ 第1戦

4月11～13日
鈴鹿サーキット
5.807km



『とちぎル・ボーセ モータースポーツ』が挑む、国内最高峰カテゴリー、全日本選手権スーパーフォーミュラシリーズ第1戦が、鈴鹿サーキット(三重県)を舞台に、4月11～13日に開催された。今シーズンはマシンが一新されて、ダラーラ・オートモティブ製のSF14に、エンジンも2000ccの直列4気筒直噴ターボに改められた。その進化は著しく、公式テストの段階でコーナリングスピードでは、もはやF1を超えたとも言われている。

ドライバーとして引き続き嵯峨宏紀を起用、エンジンは好調な仕上がりが伝えられるトヨタR14Aを使用する。公式テストでは上々の手応えを得ていることもあって、この新しいシーズンでの飛躍を目指して開幕戦に臨んだ。

予選

4月12日(土)
天候/晴れ
コース状況/ドライ

ニューマシンに改められたものの、今シーズンのオフは悪天候に祟られ、公式テストを満足に行えなかったこともあり、金曜日の午後にも1時間の専有走行が行われることに。ここでは1分40秒台でコンスタントにタイムを刻み、仕上げとなる終盤には、39秒台にあと一步と迫る40秒080をマークする。

土曜日の午前中に行われたフリー走行においても、タイヤのウォームアップが完了すると、いきなり40秒186を記録し、2周を走行したところでピットイン。セットの微調整を行い、さらにタイムを短縮し続けることが期待されたものの、デグナーの立ち上がり、立体交差下で縁石をまたいで姿勢を乱したマシンはコントロールを失い、左サイドからガードレールにヒット。ダメージは大きく、その後の走行は許されなかった。

それでもメカニックの懸命の修復作業により、予選までには間に合い、エンジンに火が入れられるも、通常なら20分間のQ1では2アタック行うのだが、コースインしたのは残り5分を切ったところ。それでも希望を捨てず果敢に攻め立て、1周目に40秒297、次の周には39秒615をマークしたものの、そこでチェッカー。19番手からの追い上げを目指し、決勝へ臨むことになった。

TOYOTA

Racing Development
TRD

DENSO

TPR

NPR

AISIN AW

AISIN

富士電機

GTCS

豊田自動織機

NSK

frs
FRS RACING CO., LTD.

カーエスアイ

TDK

MARUYASU

TAMACHI

ばねの東郷

AIDO METAL

振木トヨ

トヨレンタリース橋本

Next Stage

TRD

中康スバル

icode

ROWEN
CUSTOMER INNOVATION

Castrol

EBBRÖ

ODYSSEY

TAKATA

ThreeBond

UP START

BILLION

TOYOKO

wax graphics

SEV

NEO SPEED PARK

道の駅もてぎ

決勝

4月13日(日)
天候/曇り
コース状況/ドライ

日曜日午前中に行われたフリー走行では順調にメニューもこなされ、ニュータイヤのスクラブ、そして7週の連続周回で燃費チェックも完了。30分間の計測中には1分41秒477を記し、その後のサーキットサファリではセットアップも進んだこともあって40秒998にまで短縮を果たす。予選では僅かな時間でのアタックとなり、後方からのスタートを強いられているものの、これならば十分決勝レース中の追い上げも可能だと思われた。

スタート信号が消え、絶妙なクラッチミートで好スタートをきると、スタートダッシュだけで2台をかわし、1コーナーでの混乱も巧みに回避し、オープニングラップ終了時には5台を抜いて14番手に浮上。2周目にはさらにもう1台を仕留めようという矢先に、なんと駆動系にトラブルが。ペースの著しく落ちたマシンを何とかピットまで運んだものの、修復してコースに戻すことは許されず、無念のリタイアを喫することとなった。

次回のレースは5月16～18日に、富士スピードウェイで開催される。第3回合同テストでは好結果も得られているサーキットだけに、ここを真のスタート地と気持ちを切り替え、巻き返しを誓うこととなった。



TOYOTA

Racing Development
TRD

DENSO

TPR

NPR

AU AISIN AW

AISIN

富士電機

ETICS

豊田自動織機

NSK

frs
FRS ASSOCIATES CO., LTD.

カーエース

TDK

MARUYASU

TAMACHI

ばねの東郷

AIDO METAL

橋本トヨタ

トヨタレンタリース橋本

Next Stage

TRD

中康スバル

icode

ROWEN
CUSTOMER INNOVATION

Castrol

EBBRO

OBYSSEY

TAKATA

ThreeBond

UP START

BILION

TOYONO

wax graphics

SEV

NEO SPEED PARK

道の駅もてぎ

チーム監督
坪松唯夫
Tadao Tsubomatsu
COMMENT

金曜日の走行こそ順調にプログラムを消化出来たが、フリー走行でのクラッシュで一番重要な走行時間を失ったことで、マシン修復に追われ、速さを追及する対策を何も施せないまま予選を迎えてしまった。このレースウィークはトラブルとは無縁ではあったが、スタート後に駆動系トラブルが出てしまい、目標であったポイント獲得はならなかった。次戦、富士スピードウェイでは、シーズン前のテストでも良い感触を得ているので、トヨタのホームコースで少しでも上位進出ができるよう、しっかり準備して臨みます。

Driver
嵯峨宏紀
Koki Saga
COMMENT

全部の流れを決めてしまった、土曜日のフリー走行でのクラッシュが大きくて、予選も完璧な状態で走れず、とにかく自分のミスから招いた結果でした。決勝はスタートが良く2台をすぐ抜いて、前との接触を避けながら一周目で5台ぐらい抜きました。ペースも良く、『さあ、もう1台！』という感触があった途端にトラブルが起きてしまいました。次回の富士では自分で良い流れを引き付けられるよう、しっかり準備して臨みます。

全日本選手権スーパーフォーミュラ 第1戦 鈴鹿サーキット レース結果

順位	車番	ドライバー	チーム	予選順位
1	8	R.デュバル	Team KYGNUS SUNOCO SF14	7
2	3	J.ロシター	フジ・コーポレーション KONDO SF14	4
3	38	石浦宏明	P.MU/CERUMO・INGING SF14	6
4	7	平川 亮	ACHIEVEMENT Team KYGNUS SUNOCO SF14	11
5	36	A.ロッテラー	PETRONAS TOM'S SF14	1
6	37	中嶋一貴	PETRONAS TOM'S SF14	3
7	19	J.P.オリベイ	Lenovo TEAM IMPUL SF14	5
8	11	V.リウッツィ	HP SF14	15
リタイア	62	嵯峨宏紀	DENSO Le Beausset SF14	19

TOYOTA

Racing Development
TRD

DENSO

TPR

NPR

AW AISIN AW

AISIN

F 富士電機

OTICS

豊田自動織機

NSK

frs
FRS MOTORSPORTS CO., LTD.

カーエース

TDK

MARUYASU

TAMACHI

ばねの東郷

AIDO METAL

振木トヨタ

トヨタレーシングモータース振木

Next Stage

TRD

中康スバル

icode

ROWEN
CUSTOMER ASSOCIATION

Castrol

EBBRO

ODYSSEY

TAKATA

ThreeBond

UP START

BILLION

TOYORO

wax graphics

SEV

NEO SPEED PARK

道の駅もてぎ